

編集人 特定非営利活動法人 ゆめ風基金事務局

(〒533-0033大阪市東淀川区東中島1-13-43-106) TEL06-6324-7702

ゆめごよみ風だより 103号

INDEX

- ・迷惑をお互い様に置き換えれば
- ・被災地報告 東日本大震災12年目の3.11
- ・第22回総会報告
- ・リレーエッセイ 災害と障害者 第76回
- ・応援団からこんにちは！vol.5
- ・おおさか災害支援ネットワーク・要配慮者部会
- ・カンパをいただいた団体/事務局の動き
- ・会計報告
- ・各地からの風だより
- ・編集後記

「迷惑」を「お互い様」に置き換えれば 理事 永村 実子

阪神淡路大震災の記録集を取り出して読むことがあるが、いつも発見があるし、災害時、みんな本当に大変な中を生き抜いてきたのだ、と改めて感銘と敬意の念を抱かせるものだ。

「障害者たちの144日」、「兵庫県南部地震障害者救援本部シンポジウム-障害者のくらしの再生は見えてきたか?~震災2年目を前にして~」「忘れない心 が私たちの心 活動の

記録」などの記録集は、どれもリアルで、詳細に記録されているが、あんな大変な中でよ

くぞ^{きろく}記録したものだ^{あたま}と頭^さが下がる。

ねんげつ^{とも}年月と共に薄れていく記憶、それが当時^{きおく}に引き戻され、様々な人の思いにふれ、そんな中^{なか}で

気になったのが「迷惑^{めいわく}」というもの。「障害者^{しょうがいしゃ}たちの144日」で、支援学校^{しえんがっこう}の先生^{せんせい}が「迷惑^{めいわく}

をかけやすい社会^{しゃかい}に(できないと言えること)」で書かれていたのは、ある障害者^{しょうがいしゃ}がラーメン

屋^やで箸^{はし}を取り出して「おばちゃん食べさせて」とお願いしている姿^{すがた}を見て「目^めからうろ

こ」、自分^{じぶん}でできることが本人^{ほんにん}にとっても一番^{いちばん}いいことで、人^{ひと}に安易^{あんい}に頼^{たのま}まないことを教え

てきたけれど、彼^{かれ}が生きていくうえで必要^{ひつよう}だったのは他人^{たにん}に「頼^{たの}める」ことだった、と。

まったくその通り^{とお}だと思う。障害者^{しょうがいしゃ}だけでなく、なかなか自分の弱さ^{じぶん}、困りごと^{よわ}、本当^{ほんとう}

は助けてほしい^{たす}と思っていることを言えず^{おも}にあえいでいる人^{ひと}は少なくない^{すく}と思う。特に今^{おも}、

コロナ禍^かで仕事^{しごと}を失い、家^{うしな}を失い、食^いうや食^{うしな}わずの日々^くの中で「他人^{ひび}に迷惑^{なか}をかけたくない、

けど、助けてほしい^{たす}」と願^{ねが}っている人^{ひと}たちは増^ふえているのではないだろうか。

例えば児童公園^{たんとこうえん}をバイク^{はし}で走り回^{まわ}るなどの極端^{きょくたん}な例^{れい}は別^{べつ}として、よく使^{つか}われる「迷惑^{めいわく}

という言葉^{ことば}。「人^{ひと}に迷惑^{めいわく}をかけるな」「歳^{とし}いって子^こどもに迷惑^{めいわく}をかけたくない」等々^{とうとう}。みんな

多^{おお}かれ少^{すく}なかれ「他人^{たにん}に迷惑^{めいわく}かけるな」と言^いわれて育^{そだ}ってきた^{おも}と思う。でも迷惑^{めいわく}ってなんだ？

迷惑^{めいわく}と無縁^{むえん}に生きられる人^{ひと}っているの？

気^きになってネット^{けんさく}で検^{けん}索^{さく}するといろいろと出^でてきて面白^{おもしろ}い。「迷惑^{めいわく}」という概念^{がいねん}がない国^{くに}

もあるとか。「迷惑^{めいわく}とは、他人^{たにん}の行^{こう}為^いにより、不快^{ふかい}になったり、困^{こま}ったりすること。また、

そのさま」とある。迷惑^{めいわく}は字^じのとおり、迷^{まよ}い惑^{まど}うことで、どうしていいか分^わからなくなるこ

とを意味^{いみ}していた。次第^{しだい}に、他人^{たにん}の行^{こう}為^いによって自分^{じぶん}自身^{じしん}がどうしたらいいか困^{こん}惑^{わく}する意味^{いみ}

が強^{つよ}くなり、現在^{げんざい}の使^{つか}われ方^{かた}に変^{へん}化^かしていったようだ。

「迷惑^{めいわく}」を「お互^{たが}い様^{さま}」に置^おき換^かえれば随^{ずい}分^{ぶん}と楽^{らく}になることも多い^{おお}ように思^{おも}う。ところ

が自分が知らず知らずのうちに「迷惑」とやらの呪縛にとらわれ、遠慮してしまう、卑屈になってしまうことはないだろうか。私自身の体験ではおおいにあるものだ、と後になって気づかされる。

東日本大震災で、被災した障害者を探して避難所巡りをしていたボランティアの1人が「ここに障害者はおられませんか」と聞いたら、「ここではみんなが障害者みたいなものだ」と一喝され何も言えなかったそうだ。気持ちはわかる。でも、そのやり取りをもし障害者や家族が聞いていたとしたらどうだろう。なかなか自分の困りごと、「助けて」を言い出しにくいのではないだろうか。

災害はいつ起きるかわからない、自分の身にいつどんなことが起きるかわからない、助けられる側、助ける側、それはいつだってお互い様のことで、ならばできるだけ「お互い様」として向き合っていけば、少しの余裕がお互いに生まれるのではないだろうか。

助けることは感動と少しの余裕があればできると思う。でも、自身で「助けて」と言うのはなかなか勇気がある。災害時、みんなが困っている。だからと言って遠慮しないで、「助けて」を言い合えるようになればいいな、そういう社会であってほしいと願う。

トルコの大地震で、そこに暮らす障害者たちはどうしているんだろうと気になる。気になっても、現地で支援活動をしているNGOの人たちと連絡を取ってお金を渡すくらいしかできないのだが。「100年に1度」と言われる災害が毎年のように発生し、世界のあちこちで大型の自然災害に見舞われる様を見て、気候変動などの人間がもたらす自然破壊に関心をも持たなければと思う。

被災地報告

東日本大震災12年目の3.11

事務局 阿部 俊介

3月11日は石巻市出身の僕にとって、忘れられない日であって、この日は毎年宮城に

かえ こと 帰る事にしています。こんご わす 今後も忘れてはならない日でもあります。こんかいほうもん おおかわしょうがっこう 今回訪問した大川小学校

は、8.6mものつなみ がっこう をのみこんで じどう 74名、めい しょくいん 職員 10名がめい ぎせい 犠牲になったところです。

おおかわしょうがっこう 何度も行きましたが、このひばかりは亡くなった子どもたち こと おも 大川小学校には何回も行きましたが、この日ばかりは亡くなった子ども達の事を思うと たら 辛くなるので行きたくありませんでした。しかし、こども ども こと かんが 考えると、い 行かなければ ならないと思う気持ちがあり、行くことにしました。とちゅう けんかだい 途中で献花台にお供えをするはなたば か 花束を買 いました。

こんかい おおかわしょうがっこう いっしょ い 今回、大川小学校と一緒にいきたいと言う人がいました。いう ひと わたしたち しんさいご かか 私達とも震災後から関わりの ある、ほうじん かな み もり だざい NPO法人「奏海の杜」の太齋さんです。とうちゃく 3.11 という事もあり、ふだん ばい 普段の倍 以上の人がけんか 来ていました。ぼくたち とうちゃくご 僕達も到着後すぐにけんかだい はな そな 献花台に花をお供えしました。

その後、ご ひさい 被災したこうしゃ み まわ 校舎を見て回りました。こうしゃない とうじ こ 子ども達たちがしょう もの 使用していた物な ども いろいろ があり、それを見るたびに亡くなった子ども達がおも う つら 思い浮かんで辛くなります。

おおかわしょうがっこう まいとし がつ 大川小学校では毎年3月にさいばい たいけんがくしゅう おこな うらやま 裏山 裏山 をのぼ ひなん 登り避難すれば、つなみ ひがい まぬが 津波での被害は免れるはずでしたが、この場所にはばしよ ひなん 避難せず、さんかくちたい 三角地帯 と言う場所にばしよ ひなん 避難しようとしたため おお ぎせい 多くの犠牲を出してしまいました。それを思うとおも ほんとう に 胸がむね し つ 締め付けられるおも 思いになります。

こんご 今後、このようなひがい な 被害を無くすため、ひごろ と く か 日頃からの取り組みが欠かせません。がっこう こ 学校は子ども たち さいご ばしよ 達の最後の場所であってはないと僕は考えます。ぼく かんが 未来あるこども たち まも 達を守らなければなら ないところ おも 心から思います。



ひだり おおかわしょうがっこうまえ けんか だい みぎ おおかわしょうがっこううらやま こうてい
左：大川小学校前 の献花台／右：大川小学校 裏山 から校庭 を眺める

だい かいそうかいほうこく 第22回総会報告

2023年3月18日（土）「ゆめ風基金第22回定時総会」が

愛媛県松山市で対面とインターネットとの2つの形式で

開催されました。3年振りの対面での開催という事もあり、

会場内 は賑やかな声で溢れていました。



2022年度活動報告・決算報告、監査報告、2023年度事業計画・活動予算、役員補充について

諮ったところ、すべての議案が承認されました。

活動報告では、ホームページのリニューアル、Facebook や Instagram など SNS を活用し

た広報活動の拡大や、被災障害者救済事業で、2022年3月の福島県沖地震で被害にあわれ

た団体や、コロナ禍で運営困難に陥った団体への支援も行い、総額760万3870円の救済金

を届けた報告がありました。

また、近年、豪雨や台風による災害が多発しており、災害時にゆめ風基金への情報提供

や災害支援にあたる「ゆめ風応援団」の呼びかけを行い、滞りなく閉会しました。

今回、愛媛での総会開催に際し、CIL松山の須賀さんが

地元の様々な方へお声がけくださり、後半は【吉田町

手をつなぐ育成会】山本さん、【愛媛県腎臓病患者

連絡協議会】河野さん、【レインボーアグリ】和氣さん、

渡辺さんより、2018年7月の西日本豪災害の当時の被害状況、復興支援の様子、新たな団体

との繋がりなどを話してくださいました。

場所を変え、夜の交流会では、【愛媛県重症心身障害児(者)を守る会】岩井さんの報告、

牧口一原作アニメ「風の旅人」も上映されました。自己紹介では【ネット東大和】の田淵



さんより「海老原宏美基金」立ち上げの報告もあり、有意義なひとときとなりました。

翌19日（日）は、愛媛県内のネットワーク構築を目指し、交流会を開催しました。八幡
事務局からは、現在、四国には中間支援組織がない状況を踏まえ、災害時における
中間支援組織のあり方、ネットワーク作りの重要性、おおさか災害支援ネットワーク（OSN）
の組織構成についてなどの報告がありました。

その後、【宇和島NPOセンター】山本さんより、宇和島における中間組織設立に関しての
報告、【松野町】上本さんからは、町の小ささを強みに活かしたネットワークづくりについ
て、【NPO法人 歩】白石さんは、災害後の事業再開に際し、受援力と受援計画についての話
をしてくださいました。

この他にも、伊方原発近くにある施設の方は、原発に対しての備えも必要で、利用者の命
も守らなければいけないし、職員の命も守らなければいけないと発言されました。他にも、
医療的ケア児を抱えるご家族が避難所へ行った時、天気が回復したので家に帰っても良いの
ではと、避難を拒否されたとの報告もありました。

最後はCIL松山の須賀さんが「障害者団体同士の繋がりがしっかりとあれば、色々と繋が
っていきける！まずは1回目の話し合う場を持ちましょう！」と締めくくられました。

両日とも、時間の都合で駆け足の進行となってしまいました。交流会の様子は、後日ゆ
め風ブログにて詳しくお伝えさせていただきたいと思っております。（文責・事務局 植野 加代）



もよおし 催しのお知らせ

10/6 金曜日 18:30

第18回 ゆめ風であいましょう

「原発と戦争を推し進める愚かな国・日本」



こいで ひろあき
小出 裕章さん

出演者：小出 裕章さん（元京大原子炉実験所）・小室 等さん（撮影 嘉納雅彦）

場所：ココネリホール（東京都練馬区練馬1-17-1 Coconeri 3階）

チケット：一般1,500円／高校生以下500円／ペア割2名で2,000円／介護者1人無料

申込は、ウェブサイト「カタログハウスの学校」まで

リレーエッセイ 災害と障害者 第七十六回

自分の気持ちを伝えていける社会へ CIL星空 高橋 愛実

1991年1月23日 宮城県大崎市出身。

生まれつき『脊髄性筋萎縮症』の障害があり、5歳から車椅子を利用。

中学時代まで地元で過ごす。高校から特別支援学校に進学し、隣接の

国立病院の療養介護を利用し入所する。通信教育学部のある福祉系大学へ進学。卒業

を機に、当時、仙台市にあった「CIL たすけっと」に所属し、地域での生活を開始。2017年

愛媛県松山市へ引っ越し。現在「CIL 星空」当事者スタッフとして活動中。



私は、社会経験を積むことを幼い頃から遠ざけられてきた。いつも側には両親や学校の

先生、施設職員がいたので、失敗を経験することが少なく、守られながら生活を送ってきた。

また、「いい子であること」や「周りに迷惑をかけないようにすること」を何度も両親

に言い聞かせられてきた。そのため、周囲にできない姿を見せるのが嫌で、本来の自分自身

かく いき ふつう おも
を隠しながら生きてきた。それが普通だと思っていたため、おかしいことも思わなかった。

ひがしにほんだいいんさい お だいがく ねんせい お ころ とうじにゅうしょ しせつ
東日本大震災が起きたのは、大学2年生が終わる頃だった。当時入所していた施設から
がいはいく じっか かえ わたし ちち こうこう とき な とき ぼし
外泊をしていて、実家に帰っていた。私は父を高校の時に亡くしており、その時から母子
かてい そだ しんさい お ひ ははおや しごと い わたし いえ あそ き そぼ いっしょ
家庭で育ってきた。震災が起こった日、母親は仕事へ行き、私は家へ遊びに来た祖母と一緒に
にテレビを見ていた。そして、14時46分。地響きと共に家が揺れ始めた。宮城県は頻繁に
おお じしん き はじ じしん き も
大きな地震が来ていたため、初めは「いつもの地震かな」くらいの気持ちであった。しかし、
ゆれ じょじょ つよ わたし くるま と は いえ なか もの たな
揺れは徐々に強くなり、私は車いすごと飛び跳ねたのである。家の中にある物は棚から
すべ お ほんだな たお あし ふ ば な なに お わ
全て落ち、本棚は倒れ、足の踏み場も無いほどとなった。何が起きているのか分からず、
こわ しかた がなかった。祖母に体 を支えてもらっていたので車いすからの落下は無かった
ものの、この時私1人だったら、今ここにいないかもしれないと思うとゾッとする。

ははおや おとうとたち さいしょ ゆ き ふんご きたく そぼ じたく ようす み かえ
母親と弟 達は最初の揺れが来てから30分後に帰宅し、祖母は自宅へ様子を見に帰った。
あの日、とても寒く雪が降っていた。家族で避難所へ行くことも考えたが、車いすのま
ま過ごせるのか分からず、不安なことが多かったため、自宅で一つの部屋に集まり、母と弟
と一緒には毛布にくるまりながら大きな余震が続く夜を過ごした。停電になっていたの
で じょうほう て い しゅだん にほん たいへん よくじつ し
情報を手に入れる手段がなく、日本が大変なことになっているということを翌日知った。

わたし ほんとう かぞく はな なに お わ じょうきよう
私は、本当はこのまま家族と離れたくなかった。いつ何が起きるか分からない状況で
あり、次に会えるのがいつなのかも分からない。施設に戻りたくないと言いたかった。しか
し、介助の面での負担や自分がいても足手まといになると思い、自分の思いを押し殺して
じしん はっせい かご しせつ かえ しせつ ひなん せいかつ おく じたく
地震発生から2日後に施設へ帰ることにした。そこから、施設で避難生活を送り、「自宅よ
り施設の方が安心できる」という思いに自分の考えを変えていった。この時も私は、自分
の思いを発信することをせずに「聞き分けの良い子」として過ごしていた。

この時、もし自分の気持ちを言えていたら。母親にだけ介助の負担を掛けずに生活する
制度をきちんと理解していたら。誰かに頼ると言うことができていたら。私自身の生活や
主体性は大きく変わっていたのではないかと思う。自分の考えを変えることなく、周りに流
されずに生活を送っていただろう。最近、震災の経験をはじめ過去の経験を振り返る度に
「私は周りから守られすぎていた」と思うことが多々ある。

現在、私は児童館訪問や小学校・中学校で出前講座を行なっている。子どもたちと近い
距離で一緒に活動することで障害者と健常者の境目を無くし、インクルーシブが実現する
ビジョンを持ちながら活動している。

私には健常者の友人がたくさんいた。友人たちの多くは、「めぐちゃんが困っていたら
助けてあげてね」と私の周囲にいた大人たちからよく言われてきたと思う。私の中で子供
の喧嘩は、社会性を身につけていくための最初に学ぶ手段だと考える。その喧嘩を私はし
てこなかったのも、当時の友人たちとは深く繋がれず、上辺のみの付き合いでしかない。人間
関係は、自分から相手を理解していこうと近づくことによって深くなる。自分の思いを伝え
ようと思うからこそ、意見もぶつかり合う。それができた時に対等な関係ができていく。だ
からこそ、今は友人と本当の意味でぶつかり合っている。

障害者は常に周囲から守られながら生活してきた。私もその一人だ。どんな時も、自分
の気持ちを押し殺し、それが普通だと思い込んできた。当時の思いを忘れずに、今後はお互
いに存在を認め合える社会を目指して、これからも活動を続けていきたい。

応援団からこんにちは vol. 5

災害時にはより小さな地域単位、「町」や「村」での情報が必要になってきます。そこで、
いざ、災害が発生したときに「地域単位」で情報収集してくださる団体を募集すること

にしました。それが「ゆめ風^{かぜふう}応援^{えんどう}団」です。



いわてけんけせんぐんすみたちょう
岩手県気仙郡住田町

とくていひ えいりかつどうほうじん
特定非営利活動法人 カトレア会 夢考房・カトレア

しょちょう さとう まさこ
所長 佐藤 正子

わたし じゅうろうけいぞくし えん がた とお ゆめこうぼう つうしよしゃ あか
私 たちは、就 労 継 続 支 援 B 型 のサービ ス を通して、夢考房・カトレアの通所者が、明る
く・前向きに・自分らしく、生きられるようにと活動を展開しています。

ゆめふうききん との づな ねん がつ おこ どうほくだいしんさい とし
ゆめ風基金との繋がりは、2011年3月に起こった東北大震災の時でした。

どうちいき こうれいしやよう しせつ あ しょう も かたがた ため じぎょうしよ な
当 地 域 には、高 齢 者 用 の施 設 は有りますが、障 がいを持たれる方々の為の事業所は無く、
きんりん じぎょうしよ りよう こと ふくし おんけい よく
近 隣 の事 業 所 を利 用 する事 により福 祉 の恩 恵 に浴 して いました。

どうちいき しょう も かたがた ため じぎょうしよ ほ かぞく きぼう
当 地 域 にも、障 がいを持たれている方々の為の事業所が欲しいというご家族の希望と
ひさいち かたがた う ざら ゆめこうぼう た あ
被 災 地 の方 々の 受 け 皿 にな れ る の なら ば と、夢 考 房 ・カトレアを 立 ち 上 げ ました。

さまざま かつどう てんかい おりおり かぜききん たす いただ
様 々 な活 動 を展 開 さ せ て い く 折 々 に、ゆめ風基金に助けて 頂 きました。

「カトレアの足跡を語る時に、ゆめ風基金なくして語れない」と通所されている方々、その
かぞく しょくいん り じ いちどうふかくかんしゃ
ご 家 族 ・ 職 員 ・ 理 事 一 同 深 く 感 謝 して おります。

これから、少しでも、恩返しが出来ればと「ゆめ風^{かぜふう}応援^{えんどう}団」に加わらせていただきました。

こんご よろ ねが いた かんしゃ
今 後 と も、宜 しくお 願 い 致 します。 ・ ・ ・ 感 謝 を こ め て ・ ・ ・



いわてけんおおふなとし
岩手県大船渡市

とくていひ えいりかつどうほうじん
特定非営利活動法人さんりく・こすもす

りじちょう にいぬませつこ
理事長 新沼節子

いま くに ねっき さ せかいいち やきゅうにんき たか
今 この 国 では WBC の 熱 気 が 冷 め や ら ず、世 界 一 に な っ た こ と で、ず い ぶ ん と 野 球 人 気 が 高
ま っ て い る よ う で す。 わ た し おおふなとし もちろん い わ し さ さ き ろ う き せんしゅ しゅつしんち
私 たち の 大 船 渡 市 は 勿 論、言 わ ず と 知 れ た 佐 々 木 朗 希 選 手 の 出 身 地

ただ じっか いんねん がつ にち せ かい は すがた なん
(正しくは実家があります)で、因縁の3月11日に世界デビューを果たした姿には何とも
い かんどう おぼ
言えない感動を覚えました。

ここは、12年前「未曾有」と呼ばれる大震災に見舞われました。国がそんな私たちを
どこまで支援してくれるのか、全くわからない中で、突然、ゆめ風さんが事業所に訪ねてこ
られたことは、また、大きな感動の出来事でした。こんなこともあるのかと心強くて、そ
の気持ちはどう表現したらいいのかわからないほどで、それからゆめ風さんには、物心
両面たくさんの支援をいただきました。震災が教えてくれた大きなことは、日常の大切さ
ではないかなと思います。震災の次はコロナか〜と、違った意味で心が折れそうになった
こともありましたが、いろんな感動と感謝を忘れず、ここにいるみんなで、その小さな日常
を積み重ね、日常を失うような被災に見舞われた方々を応援していければと思っております。
みな
皆さんありがとうございました。

OSN おおさか災害支援ネットワーク・要配慮者部会

じ む きょくちょう やはた たかし
事務局 長 八幡 隆司

さいがい そな かんけい 災害に備え、ふだんから顔の見える関係づくりを

さいきん じむきょく うご らん さいがいしえん なまえ よ で
最近「事務局の動き」の欄におおさか災害支援ネットワーク（OSN）の名前が良く出て
きています。OSNは東日本大震災をきっかけに、ふだんから顔の見える関係づくりを進め
ておこうと、おおさかふしゃかいふくしきょうぎかい にほんせきじゅうじしやおおさかふ し ぶ おおさか きょうかい
大阪府社会福祉協議会、日本赤十字社大阪府支部、大阪ボランティア協会な
ど7つの団体が呼びかけ、2014年に発足した団体です。年2〜3回の定例会を行い、企業や
NP O団体、社会福祉協議会、自治体など様々な業種がこれまで延べ 880団体が参加し、
こうりゅう ふかめる どうじ ひごろ さいがい お とき れんけい けんとう
交流を深めると同時に日頃から災害が起きた時にどのような連携ができるのかを検討して
います。

2018年からはゆめ風基金もOSNの世話役となり、単に参加する側から運営を担う立場になりました。

事務局団体のないネットワーク組織

OSNは7つの団体が世話役となり運営をしていますが、代表団体や事務局団体がなく、7つの世話役団体は対等な立場にあります。法人格もない任意の組織ですが、大阪府や大阪府社会福祉協議会とは大阪災害支援活動連携会議という三者連携会議を平時から年3回程度持っており、災害時にNPO団体等の取りまとめをする災害時中間支援組織という位置づけも持っています。熊本地震以降、こういったNPO団体等をまとめる中間支援組織と行政、都道府県社協との三者連携会議が重要視されるようになりました。

このような災害時の中間支援組織を持っているのは2022年2月時点で22都道府県ということで、まだ半数にも満たないのが現状です。

要配慮者部会

OSNでは災害時を想定し、8つの課題別部会を持っています。ゆめ風基金は大阪ボランティア協会とともに要配慮者部会を担当しています。要配慮者部会では障害者や高齢者だけでなく、外国人、子ども、

ペット連れの人、食物アレルギーの人、LGBTの人など災害時に支援を受けにくい人たちの支援を考える部会です。

これまでそういったマイノリティの人たちの支援は、それぞれの分野で行われていたのですが、この部会ではそういった縦割りの支援ではなく、横断的に支援ができないかと考えています。昨年より本格的に部会が動き出しましたが、全国的にもまだ例を見ないと取り組みなので、試行錯誤の中で進めています。



カンパを頂いた団体 2023/1-2023/3

お店に募金箱を置いてくださったり、街頭募金やバザー、イベントで集めてくださったりしています。

本当にありがとうございます。もしも記載漏れがありましたら申し訳ありません。

1/4 大刀洗町 障がい児者親の会ぽけっと（三井郡）、共に結（江戸川区）

1/6 ベルカテナ（越谷市）

1/7 コーヒータイム（二本松市）

1/11 Tea for two（四街道市）、聖愛園（大阪市）

1/12 燦然会（大阪市）、

1/13 作業所ゆう（三田市）

1/17 常福寺（大阪市）

1/18 第14回障害児の高校進学を実現する全国交流集会

in くるめ実行委員会（鞍手郡）

1/19 みみらくの里（五島市）

2/2 ハートフル親の会（大東市）

2/6 ビーカンパニー（岐阜市）、聖バルナバ病院礼拝堂（大阪市）

2/11 箕面市人権啓発推進協議会（箕面市）

2/15 プール幼稚園（大阪市）

2/20 ポジティブ生活文化交流祭実行委員会（大阪市）

2/22 三角ベース（国東市）

2/27 おふいす あうりっつ（交野市）

3/15 いーはとーぶ（さいたま市） / 障害福祉センターひまわり（豊中市）

3/16 ^{とも ゆい えどがわく}
共に結（江戸川区）

3/17 ^{じぎょうだん しずおかし}
ひまわり事業団（静岡市）

3/20 ^{くらしきし}
ケアサポートくらしき（倉敷市）

^{じむきよく うご} 事務局の動き 2023/1～3

^{ねん がつ がつ うご いちぶ しょうかい}
2023年1月から3月の動きを一部ご紹介します。

^{まいしゅうげつようび じむきよくかいぎ まいしゅうきんようび しんうちあわ}
★毎週月曜日：事務局会議 ★毎週金曜日：新HP打合せ

1/6 ^{とくしまけんけんしゅうかいうちあわ}
徳島県研修会打合せ（zoom）

1/12 ^{つうしんりんじごうはっそうさぎょう}
通信臨時号発送作業

1/17 ^{おおさかふじしんつなみさいがいくんれん}
大阪府地震津波災害訓練

1/23 ^{おおさかさいがいしえん ていれいかい}
OSN（大阪災害支援ネットワーク）定例会

1/25 ^{ごうへんしゅうかいぎ みやこじまくこうえんうちあわ}
ゆめごよみ102号編集会議、都島区講演打合せ

1/28 ^{こうえん}
ファインサポートパピエ講演

1/31 ^{とくしまけんこうえん}
徳島県講演

2/1 ^{じぎょうけいぞくけいかく けんきゅうかい}
BCP（事業継続計画）研究会

2/4 ^{おおさかしみやこじまくぼうさいくんれん}
大阪市都島区防災訓練

2/6 ^{ぜんたいけんしゅううちあわ}
OSN全体研修打合せ

2/10 ^{ごうへんしゅうかいぎ}
102号編集会議

2/13 ^{あそくもこうえんかいうちあわ りじかい}
遊び雲講演会打合せ、理事会

2/14 ^{そうかいうちあわ}
総会打合せ（zoom）

2/17 ^{せわやくかい あそくもこうえんかい ぜんたいけんしゅうかいうちあわ}
OSN世話役会、遊び雲講演会、OSN全体研修会打合せ

2/18 ^{みのおししんたいしょうがいしゃふくしかいこうえん}
箕面市身体障害者福祉会講演

- 2/22 ^{みやざきしこうえんかい} 宮崎市講演会 (zoom)
- 2/25 ^{みの おし すいしんきょう} 箕面市推進協ZOOM サポート
- 2/26 ^{なかがわしこうえん} 那賀川市講演
- 3/1 ^{けんきゅうかい} BCP研究会
- 3/2 ^{ぜんたいかいぎ} O S N 全体会議
- 3/4 ^{いばらぎしこうえん} 茨木市講演
- 3/9 ^{せんたい どうししやだいがくたつきけんきゅうしつ じゅたくぎょうむさいしゅうほうこくかい} 仙台：同志社大学立木研究室・受託業務最終報告会、
- 3/9. 10 ^{つうしんはつそうさぎょう} 通信発送作業
- 3/13 ^{せわやくかいぎ} O S N 世話役会議
- 3/15 ^{うちあわ} O S N 打合せ
- 3/15 ^{へんしゅうかいぎ} 編集会議
- 3/15 ^{ひがしすみよしこうえん} 東住吉講演(ZOOM)
- 3/18. ^{かぜききんだい かいていじそうかい まつやま} ゆめ風基金第 22 回定時総会in松山
- 3/19 ^{えひめけん さいがいの ちゅうちく む} 愛媛県・災害時ネットワーク構築に向けて
- 3/21 ^{とやまこうえん} CIL富山講演
- 3/24 ^{わせだだいがくこやまじゅんきょうじゅ ちゅうがくせい うちあわ} 早稲田大学古山准教授・中学生プロジェクト打合せ
- 3/27 ^{ようはいりよしやぶかいきかくかいぎ} O S N 要配慮者部会企画会議

^{かいけいほうこく} ^{べっし}
会計報告（別紙）

^{かぜ} ^{かぜ} ^{ろっこう} ^{かくち} ^{かぜ}
そよ風、つむじ風、六甲おろし/各地からの風だより/2023. 1-2023. 3

▼^{かぜ} ゆめ風だより NO. 101^よ 読んで、^{きょういくじつげんねが} インクルーシブ教育実現願う^{ふくおかし}（福岡市）

▼^{ひと} 人の命^{いのち} を守る為には^{まもるため} 反撃能力^{はんげきのうりよく} よりも防災を！！^{ぼうさい} （箕面市）^{みの おし}

▼ほそぼそとでも誰かのために役に立っている自分を実感できるのは「ゆめ・風」のおかげです。がんばっていただいて、ありがとうございます（熊本市）

▼戦争は始めてしまったら容易には終わらない。戦後80年近く経つ私たちの国でも遺骨は海や山の中で帰れません。悲しみの傷はずうっと続きます（船橋市）

▼世界人類が平和でありますように（高槻市）

▼防衛費の増額を復興予算から使う？何を考えているのでしょうか（平野区）

▼生きてることに感謝して。久々、少しですが、何かにお役に立ていただければ。（台東区）

▼戦争準備、原発、今年こそは希望の持てる日々になってほしいです！（八王子市）

▼物価高でお互いさまですが、せめて、気持ちを（西東京市）

▼トルコ・シリア大地震に役立ててください（杉並区）

▼80才でコロナ禍ですが頑張っています。わずかですが役立てて下さい（箕面市）

▼毎日のニュースに胸が痛みます。どれだけの命が傷付いているのでしょうか。お世話頂く

方々に心よりお礼申し上げます。どうぞよろしくお願い致します（松江市）

▼震災時以来の送金です。一昨年より仕事をするようになりました。少額ですが、皆様が

少しでも笑顔になれば 幸 です（秦野市）

▼少しずつ暖かくなってきて、桜の開花が待たれます。皆の気持ちがちょっとでも明る

く軽くなればと思います。（荒川区）

▼トルコ地震もあり、震災のおそろしさを改めて感じます（幌泉郡）

▼日常生活が戻りますように（知多市）

▼震災、コロナ、ウクライナ日々穏やかな暮らし出来る事、祈ります（世羅郡）

▼東日本大震災、原発事故から12年、その間も多くの災害がゆめ・風の支援、ありがと

う！！カンパぐらいしかできないけれど、思いはともに！！原発・再稼働延長はありえな

い！！（^{かとうぐん}河東郡）

▼^{へいわ}平和な^{せかいかん}世界観が^{ひろ}どんどん^{だいとうし}広がってほしいです（大東市）

▼^{かつどう}活動を^{こころづよ}心強く^{ゆうき}勇気を^も持っています。^{とうじしゃ}当事者に^{かつどう}そった活動、^{しえん}支援^{わたし}これからもよろしく！私
もがんばります。（^{よこはまし}横浜市）

▼^{わたし}私も^{さいがいじゃくしゃ}災害弱者^{だいき}になりました。^{ぼさいがい}大規模災害^{とき}の時、^{じじょ}自助と^{しゅご}守護^{こまきし}がありますように（小牧市）

▼^ひ日々の^{ごかつどうかんしゃ}御活動感謝^{いま}しております。^{にほん}今、日本は^{たいへん}大変な^{こと}事になっています。^{さい}88才の^{わたし}私です
が^{くち}口をあければ^{せんそう}戦争の^{いけだし}こわさをうったえています（池田市）

▼^た貯めるより^わ分ける（^{よつかいどうし}四街道市）

▼^{さぎょう}パンの^{はい}作業に入るようになり、^{こうちん}工賃が^{すこ}アップしました。^{おく}少しですが^{おおさかし}お送りします（大阪市）

▼^{わたし}私たち、あの^ひ日を^{わす}忘れてはいけ^{しょうがく}ないから^{しながわく}ほんの少額^{しょうがく}ですが（品川区）

編集後記

^{げんざい}現在トルコ^{じしん}地震を^{しえん}支援している「^{CODE}海外災害援助市民センター」から、^{しょうがいしゃ}障害者の^{ひさいしゃ}被災者がいるとの^{じょうほう}情報を受け、^う被災者の^{ひさいしゃ}支援および^{しえん}他の^{ほか}障害者^{しょうがいしゃ}情報^{じょうほう}の^{ちようさいらい}調査依頼として、^{しえんきん}支援金
^{まんえん}50万円を^{かいがいさいがいえんじょしみん}CODE海外災害援助市民センターへ^{とど}届けました。^{げんち}現地の^{ようす}様子は、^{じかい}次回^{つうしん}の通信にて^{ほうこく}報告
していただく^{よてい}予定です。

また、^{こくない}国内においても^{ぜんこく}全国で^{じしん}地震が^{たはつ}多発しております。^{かぜききん}ゆめ風基金では、^{じんそく}迅速に^{たいおう}対応できる
ように^{かくち}各地の^{ひが}被害^{いじょうほう}情報^{あつ}を集めています。

^{しめん}紙面の^{へんこう}レイアウト^{ともな}変更に伴い、^{かぜ}ゆめ風^{れんらくさき}ネットワークの^{ねんいつかい}連絡先は^{しめん}年一回、^{けいさい}紙面に^{こんご}掲載することになりました。^{かつよう}今後は^{さまざま}SNSなども^{じょうほうはっしん}活用し、^{おこな}様々な^{おも}情報^{うえの}発信^{うえの}を行いたいと思います。（植野）

ゆめ風基金のSNSやウェブサイト

Facebook
yumekazefund



YouTube
@user-jt6wo9lk8q



Instagram
yumekazek



Website
yumekazek.com

